

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470300456
法人名	社会福祉法人 伊勢湾福祉会
事業所名	グループホーム マリンの家
所在地 (電話番号)	鈴鹿市中旭が丘1-11-8 (電話)059-387-8600
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 19 年 8 月 21 日(火)

【情報提供票より】 (H19年8月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 12 年 9 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 3人, 非常勤 7人, 常勤換算 7.3人	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円
敷 金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300円		

(4)利用者の概要(8 月 1 日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1		名	要介護2		7 名
要介護3		1 名	要介護4		1 名
要介護5		名	要支援2		名
年齢	平均	84.3 歳	最低	75 歳	最高 91 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	西城外科内科
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鈴鹿市東部で介護老人福祉施設、ケアハウス等幅広く事業展開されている法人が当地区(新興住宅地)に2年前ホームを移転し、デイサービス、訪問介護サービスと併設された事業所である。ホーム内は広々としたロビー兼食堂を中心に居室、浴室、トイレを配し、絶えず職員の目が行き届き利用者の行動把握が徹底されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域との交流促進は運営推進会議に民生委員を交え交流のあり方をテーマに検討しており今後に期待される。玄関周りの充実プランターの設置や入り口の表札設置等改善済みである。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員が個別に評価し、その結果をもとに管理者を中心にまとめて上げている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議設置要綱を定め、5月、7月に2回の会議を開催し、事業所の現況報告や地域との交流促進をテーマに話し合われている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	重要事項説明書に苦情受付担当者・機関を明記しているほか、玄関入り口にも掲示し、苦情相談箱を設置している。又、家族教室等来所時に意見を聞いたりしている。受け付けた意見苦情は所定の用紙で取り上げ検討対応するようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運営推進会議に民生委員の参加を得て地域交流のあり方について検討している。今後は自治会への加入、運営推進会議への自治会長の参画等により、地域行事、活動に参加する機会を作り、地域住民との繋がりをより深めることが期待される。

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	個人の人権の尊重と尊厳を守り、利用者の信頼と安心・納得の地域に根付いた支援を行なうことを事業所の理念に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入り口の掲示板に運営方針等と共に理念を掲示し、ミーティング等機会あるごとに言葉遣いや態度についても話し合い実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	公民館活動のボランティアの慰問を受けたり、保育園との交流を図っている。又、運営推進会議に民生委員の参加を得て地域交流のあり方について検討している。	○	自治会への加入、運営推進会議への自治会長の参画等により、地域行事、活動に参加する機会を作り、地域住民との繋がりをより深めることが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は評価制度の意義を理解して、前回の改善点は全員で話し合い取り組んでいる。(地域との交流促進、玄関周りの充実)		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議設置要綱を定め、5月、7月に2回の会議を開催し、事業所の現況報告や地域との交流促進をテーマに話し合われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員の定期的な来訪があり、又、地域包括支援センターとは相談問い合わせ等行い介護教室の開催要請を受けたりしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族教室(相談と意見交換)と家族週間(ケアの現状報告)を隔月ごとに設け報告しているほか、金銭管理は毎月書面でも報告し、通院等は随時連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホーム苦情受付担当者・ホーム外相談機関を明記しているほか、入り口にも掲示し苦情相談箱を設置している。又、家族教室等来所時に意見を聞いたりしている。受け付けた意見苦情は所定の用紙で検討対応するようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者を含め全職員が利用者全員と馴染みの関係を保つよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として採用時教育や年間教育計画があり、法人内勉強会や県主催の講習会等に適時参加している。それらの研修内容はミーティング、回覧で周知している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内他事業所と交流するほか、外部研修等の機会にグループホーム関係者と意見交換を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族、本人が見学され、更に管理者と職員が家庭訪問して、安心感をもって利用できる雰囲気を理解してもらっている。又、希望があれば体験入居してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	穏やかな言葉かけをしており、繕い物のノウハウや散歩で花の名を教わったり、昔の話を聞いたりして和やかな雰囲気である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活歴や経験を知るように努め、一人ひとりの特技(絵手紙、折り紙、書道等)や希望(外出、テレビ、新聞等)を聞き入れた対応がされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族教室、家族週間等が出された意見や各職員が作成するサービス担当者に対する照会(依頼)票の意見等をもとに検討した具体的な介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月毎の見直しを原則としているが、利用者の状態に応じては本人、家族及び職員等の意見をもとに随時見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて通院支援や帰宅(または外出)送迎等柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医で診療を受けられるようにしている。ただし受診や通院は家族同行を原則としている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在のところターミナルケアまでは予定していないが、重度化した場合の対応については契約時から随時家族、協力医と話し合いを行なっている。	○	ターミナルケアを含め対応指針を定め、事業所としての方針を明確にされることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は記録の取扱い、外来者への対応及び言葉遣い等ミーティングで話し合い、お互いの意識向上を心掛けている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決められているが、一人ひとりの体調、精神面を把握し、その時々々の本人の気持ちを尊重して対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の管理栄養士の献立を下に委託業者より配達される食事(時には季節的な配慮もある)の盛り付け、配膳、片付けは利用者と共におこなっている。又、職員も同じテーブルを囲み和やかな雰囲気ですべて食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則2回/週であるが個々の希望に応じてシャワーで対応している。	○	本人の生活習慣や希望に添った入浴回数の増加や希望時間帯での入浴支援の検討が望まれる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、繕い物、配膳後片付け、折り紙等で経験や知恵を発揮して一人ひとりが張りをもって生活できるよう配慮している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	洗濯物の取り込み、庭での日光浴、近隣への散歩等を行なう外、時には車での行楽・買い物・食事等に出掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室、玄関共無施錠である。利用者が外出しそうになったら、さりげなく声かけし意思を理解しあって、自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアル、緊急連絡網を整備し定期的に避難通路等点検すると共に、消防署と連携した消火・通報・避難訓練を実施している。	○	今後、自治会行事や公民館活動への参加等を通じて地域住民の協力を得る応援体制構築が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
あ					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人本部の管理栄養士の献立でバランスのとれた食事である。事業所では個々の嚥下や咀嚼の状態に合わせて(時には本部看護師に連絡を取り)盛り合わせている。又、一人ひとりの摂取量は日々記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ロビー兼食堂は明るく、周りに適当なソファを配し又、壁には利用者と園児が制作した折紙絵数点と季節感のある手作りカレンダーが掲示されているだけで、広々としてゆったり落ち着いたくつろげる雰囲気を工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人の希望に合わせて和室であったり使い慣れたベット、置き棚、日用品等持ち込まれ、又、個人用テレビも設置でき利用者の居心地のよさに配慮している。		

